

# 生徒が主体的に思考し、表現する授業 —オペラ《椿姫》の一場面に挑戦する—

千葉県立 ○○○○ 高等学校 ○○ ○○ (音楽)

## 1 はじめに

現在、高校生の音楽経験は、生徒を取り巻く環境から非常にバラエティに富んだものになっている。特に音楽を聴くことは日常生活の一部であり、その音楽の種類は多様なものである。しかし、音楽表現の方法が豊かになったかという点、そうではない。例えば、「人前で演奏する」ことに関して、抵抗を感じている生徒も多く見られる。このような現状も踏まえながら、「生徒たちが気軽に音楽に参加し、生き生きと自己表現できること」を大切にした実践を行ってきた。授業において、教師と生徒の関係、生徒同士の良好な関係を築きながら、日常的に音楽を通してコミュニケーションを図ることが、表現する意識や演奏発表力の向上につながって欲しいと願っている。そのためには、生徒自身が音楽活動に深くかかわり、創造的な表現能力の育成を目指した授業づくりが課題であると考えている。

芸術科音楽では、「生徒一人一人が、個性を生かした音楽活動を行い、音楽や芸術に対して幅広い視野をもち、卒業後も音楽活動を続けていけるよう、音楽の楽しさやよさを自分で見つける方法を身に付ける。」という方向性をもち音楽教育活動の充実を図ることが求められている。折しも、学習指導要領(平成21年3月公示)の改善事項として、「音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活とのかかわりに関心をもち、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむこと」が示され、生徒が主体的に思考・判断し表現する過程を重視した授業実践が求められている。

そこで、本研究では、上述した現状の課題に対する改善と工夫を図るために、生徒が主体的に思考・判断し表現する過程を重視した授業の在り方を明らかにし、オペラ作品を教材とした授業の一試案を示したいと考えている。

## 2 総合学科と芸術科目の履修

本校は、平成9年に、普通科と専門学科の特色を生かすための第3の学科として、千葉県で初めて誕生した単位制総合学科の設置校である。生徒たちは、興味・関心、能力・適性、進路に対応した多様な科目の中から、総合的、横断的に科目を選択し学ぶことが可能である。原則必修科目である「産業社会と人間」では、生徒たちが多様な他者との関わりの中で、自己の将来の生き方や進路について考察し、興味・関心の所在と職業との関連を深めることを重視した授業を実践している。

今回の対象生徒となるのは、D講座音楽Ⅱの選択者である。この中には、1年次より継続して選択した2年次生と、3年次に選択した3年次生が共に学んでいる。本校では、2、3年合同クラスはごく普通の環境であり、授業中の雰囲気も和やかである。また、D講座音楽Ⅱの生徒たちは、調べ学習や、発表学習に対して積極的に取り組んでいる。

### 3 研究の実際

#### (1) 2つの視点からアプローチした授業実践の概要

##### 視点1 主体的な音楽活動の展開と支援

- (ア) グループやペアで、オペラのあらすじや場面の時代背景、作曲家の生涯などについて、ワークシートを使用して調べ学習を行う。
- (イ) グループ活動を充実させるための音楽室の環境の工夫として、書籍や資料を備えたコーナーを設置する。
- (ウ) 〈乾杯の歌〉〈パリを離れて〉のどちらかを選曲し、場面にふさわしい演出を考え、演技付で二重唱表現する。また、授業内で発表の場を設け生徒同士が作品を共有できるようにする。
- (エ) 他者の演奏について批評し合う。

##### 視点2 オペラ作品を教材とした学習計画

- (ア) オペラの登場人物を知り、心情に迫ることで楽曲や作品の解釈を深める。
- (イ) 〈乾杯の歌〉〈パリを離れて〉のイメージをもって、二重唱にふさわしい表現を追求する。
- (ウ) 場面の背景や歌詞の内容を、「音楽を形づくっている要素」とかかわらせて曲想を感じ取り、表現を工夫する。
- (エ) 台本の読み合わせや、異なる舞台映像の比較などを通して、音楽以外の芸術や文化、楽曲の背景や物語、歌詞の内容、声などの表現媒体など、オペラの特徴である諸要素にも目を向ける。
- (オ) 楽曲の背景や物語の内容を理解し、名場面を選びDVDで鑑賞する。

#### (2) オペラの教材性について

音楽と演劇が融合したオペラの、声楽の魅力、オーケストラの色彩、美しい舞台装置、劇的な演出などに迫ることは、オペラの醍醐味である。

異なる演奏者や演出による舞台映像を比較しながら鑑賞することで、表現媒体である声の質感や身体の動きに着目することになる。作曲家が吟味したという台本に注目することで文学的な側面から、オペラを知ることができる。また、配役を決め台本を読み合わせるなどの活動から、アリアの存在価値や意味の深さに気づくことができる。

オペラの魅力というべき特徴には、その背景が人間の生活の場であり、そこで織りなされる様々な人間模様とその感情を表現したドラマがある。その人間ドラマは、素晴らしい音楽や演劇と結び付くことによって壮大な舞台芸術作品であるオペラとなる。それは、歌手たちの声の魅力、オーケストラの豊かな色彩、美しい舞台装置、劇的な演出によって、観る者を楽しませ、心を揺さぶるような感動を与える。

このようなオペラ作品と接し、授業を通して作品や楽曲と深くかかわることは、芸術科の目標である「感性を高め、豊かな情操を養うこと」を目指しており、意義深いと考えている。また、生徒たちは、オペラにおける人間ドラマと出会うことによって、様々な感情を抱き、登場

人物に対して共感も覚えることであろう。このような体験は、個人のアイデンティティを見だし確立する時期といわれる青年期において、人間の在り方や生き方について考える機会を与えることになるのではないだろうか。

本研究では、ヴェルディのオペラ《椿姫》を、教材化し授業実践を行う。

男女の恋愛や、それをやむなく引き裂く父親を描いたヴェルディのオペラによる人間ドラマは、生徒にとって、現実的な問題としてとらえることができる。また、イタリアオペラに徹し、声の美しさや華やかさを追求し音楽によって巧みに心理描写がなされたというヴェルディのオペラ作品に接することにより、音楽の美しさやよさを見出すことにつながると考える。

### (3) 楽曲の教材化と学習計画上の留意点

〈乾杯の歌〉〈パリを離れて〉の使用楽譜については、生徒の実態を踏まえ、無理のない音域で歌唱できる移調楽譜を使用する。言語については、日本語の訳詩による歌唱活動を導入とするが、最終的には原語で歌唱できるようにしたい。イタリアオペラの特徴である声の美しさや華やかさを感じ取り、味わうためには、イタリア語の持つ言葉の響きや色彩を体感することが大切である。

(譜例 1 参照)

### (4) 作品と楽曲について

ヴェルディ (Giuseppe Fortunio Francesco Verdi 1813~1901) は、19 世紀後半のオペラ史に金字塔を打ち立てた作曲家である。ヴェルディの革新性は、適切な題材を選び、台本と劇的効果を吟味して、オペラの演劇性と音楽性を徹底的に追求した点にある。

《椿姫》“La Traviata” は、ヴェルディが初めて当時の現代を題材にした、現実主義的なオペラの先駆的な作品であり、並外れた独創性に富んでいる。原作は、フランスの作曲家アレクサンドル・デュマ=フィスの小説である。

楽曲・構造	場 面・楽曲の表現内容
〈乾杯の歌〉 アレグレット Allegretto へ長調 8分の3拍子 (原調：変ロ長調)	第1幕 第2景、アルフレードとヴィオレッタの二重唱～登場人物たちの合唱。 オペラ全体を通して、恋愛や対立を描くために二重唱が盛り込まれている。この二重唱では、まずアルフレードが、「酒を味わおうではないか、楽しい酒杯で美が花を添える酒杯で。」と歌い出す。その歌声にしばらく聴き惚れていたヴィオレッタが加わり、「皆さま方の間にいると、私は自分の楽しいときをともに分かち合うことができますの、この世の中では、喜びでないものはすべて愚かなものなのですわ。」と2番を歌う。3番は二人が主旋律をユニゾンで歌い、他の登場人物たちが間奏を受け持ち、3番では伴奏に加わるという大アンサンブルとなる。 3拍子の軽快なリズムの伴奏に支えられ、装飾音を伴った美しい旋律が、華やかな夜会の雰囲気や、二人の気持ちの高鳴りを感じさせている。
〈パリを離れて〉 アンダンテ・モッソ Andante mosso 変ホ長調 8分の3拍子 (原調：変イ長調)	第3幕 第6景、全曲の終末近く、誤解のとけたアルフレードとヴィオレッタが将来を夢見て歌う二重唱である。 3/8拍子の伴奏に支えられ、アルフレードが流麗なメツァ・ヴォーチェで先導するように優しく歌う。付点リズムで淡々と流れる旋律は、哀しくはかなさを感じさせている。

### 3 授業研究

#### (1) 指導計画の概要 (10 時間扱い)

次	ねらい	時	学習活動
第1次 (出あ)	● 楽曲に心をよだす。	第1時～2時	○ 〈乾杯の歌〉〈パリを離れて〉の旋律の特徴を感じ取る (楽譜と向き合う) ・ソルミゼーション (a, la) による読譜を行う。 ・日本語の歌詞で歌唱する。 ・イタリア語の歌詞で歌唱する。 <span style="float: right;">[視点2]</span>
第2次 (表現意図をもち創造的に表現する)	● 楽曲の特色や感じ取る。	第3時～4時	○ 《椿姫》についての調べ学習 (グループ・ペア) ・CDで範唱を聴き、音楽から喚起されたイメージや感情などを言葉で表わす。 ・楽曲の背景について、歌詞の内容、物語の流れや他の登場人物とのかかわりなどに着目しながら調べる。(ワークシート) ・《椿姫》のあらすじについて、資料を参考にしてまとめる。(ワークシート) <span style="float: right;">[視点1]</span>
		第5時～8時	○ 〈乾杯の歌〉〈パリを離れて〉の表現の工夫と歌唱活動 ・楽曲の背景や登場人物の心情に着目し、場面にふさわしい表現を工夫する。 ・配役を決めて台本 (対訳) の読み合わせをする。 ・心情表現と音楽表現のかかわりについて考え、どのように表現するか意見を交換し合う。(自分ならこう表現したい) <span style="float: right;">[視点2]</span> ・演出や演技など、演奏上の効果を考え表現を工夫する ○ 発表 ・生徒同士で楽曲やクラスメイトの演奏について批評をする。 <span style="float: right;">[視点1]</span>
第3次 (総合的に理解する)	● 総合的な芸術的特徴を味わう。	第9時～10時	○ 鑑賞活動 ・実際の演奏をDVDで鑑賞する。 ・オペラ歌手の歌唱表現や、声の音色の特徴を感じ取る。 ・異なる演出による演奏をDVD鑑賞する。 ・音楽と演劇の結び付きについて話し合う。 ・音楽と演劇のかかわりがどのように物語の進行に効果を与えているか、気づいたことや感じたことを記録する。(ワークシート) <span style="float: right;">[視点2]</span> ○ まとめ ・作品の文化的・歴史的背景や作曲者について理解する。(参考資料・ワークシート) ・オペラを構成する諸要素について考える。 ・調べた場面を、物語の進行に当てはめてみる。 ・《椿姫》の名場面を選ぶ。(参考資料・ワークシート) <span style="float: right;">[視点1]</span>

#### (2) 題材の評価規準

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 芸術的な感受や表現の工夫	ウ 創造的な表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	楽曲に関心をもち鑑賞したりしようとしている。	楽曲の構造を把握し、楽曲の背景とのかかわりを考えて表現を工夫している。	登場人物の心情、歌詞の意味や劇の展開を考え、表現意図をもって歌っている。	総合的な芸術表現の素晴らしさを味わっている。
具体的評価規準	①音楽に対してよきかかわりをもっている。 ②イメージをもった、自分なりの表現を工夫している。	①音楽に表されている登場人物の心情を感じ取って、歌い方を工夫している。 ②次に示したような音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、自分なりに表現を工夫している。 ・〈乾杯の歌〉3拍子の軽快なリズム、装飾旋律による華やかさ、最後の高音の持続など ・〈パリを離れて〉付点リズムで流れる旋律と歌詞の味わいなど	①登場人物の心情と、楽譜や歌詞から読み取った内容をよく考えて表現を工夫している。 ②楽曲の美しさや味わいと結び付けて、創意工夫している。	①音楽と演劇のかかわりを理解し、音楽が果たす役割や意義を認識している。 ②音楽のよさや美しさなどについて、根拠をもって批評する。

#### 4 実践例その1

対 象 千葉県立八街高等学校

D 講座音楽Ⅱ 選択者 2年男子（3名）2年女子（7名）3年女子（3名）

日 時 平成22年10月21日（木）～平成22年11月30日（火）

#### 音楽Ⅱ 学習指導案

1 題材名 「総合芸術の世界」—オペラ《椿姫》の一場面を表現する—

#### 2 題材について

##### （1）題材設定の理由

本題材は、高等学校学習指導要領芸術科音楽ⅡA表現（1）歌唱ア「曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて理解し、イメージをもって歌うこと。」、エ「音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して歌うこと。」及びB鑑賞ウ「楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴について理解を深めて鑑賞すること。」を指導するものである。

具体的には、オペラを教材とし、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を基にして、音楽の構造上の特徴と美しさとのかかわりや、楽曲の表現内容を理解し、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成したいと考えている。

芸術科音楽では、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことが求められている。表現を追求する活動や、音楽のよさや美しさなどについて、言葉で表現し他者に伝えようとすることは創造的な活動であり、これからの音楽の授業を構築していく際に重要であると考え、本題材を設定した。

##### （2）生徒の実態

今回の対象生徒は、選択講座群Dより音楽Ⅱを選択している生徒たちである。2，3年次生が一緒に受講しているが、和やかな雰囲気で行っている。

D講座のクラスでは、歌唱活動に対して意欲的に取り組む生徒が多く、これまでの授業の中でも、ポピュラー音楽、ドイツリート、カンツォーネ、合唱曲と様々なジャンルに対して興味・関心を持ち活動している。しかし、音楽的特徴についてイメージとして感じ取ることにはできるが、分析的にとらえ、それらを言葉で表わし、伝えることは経験不足も相まって苦手意識をもっている。

#### 3 題材の目標

（1）オペラの一場面における楽曲の背景や登場人物の心情を理解し、音楽でどのように表現するのか探究し、表現の工夫を図る。

（2）発声の特徴、歌唱の特徴を理解し表現の工夫を図る。

（3）オペラにおける音楽の構造上の特徴や、音楽と他の芸術とのかかわりを理解し、作品や演奏の魅力を感じ取る。

#### 4 教材

(1) ヴェルディ作曲 オペラ《椿姫》より

〈乾杯の歌〉 『高校生の音楽1 教育芸術社』 p. 23

〈パリを離れて〉 『高校生の音楽1 改訂新版 音楽之友社』 p. 70

(2) ワークシート

(3) 音源と映像資料, 書籍資料

#### 5 教材観

オペラ《椿姫》は、3幕からなる、アルフレードとヴィオレッタの純愛物語である。当時の現代を取り上げ、登場人物の心情を音楽で巧みに描写したこの作品は、ヴェルディ中期オペラの代表的な作品といわれている。

#### 6 本時の指導 (第6時)

(1) 目標

- ・ 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り理解する。
- ・ 音楽の構造上の特徴と美しさとかかわりを理解し、表現の工夫を図る。

(2) 展開

時配	ねらい	学習活動	指導の留意点	◆具体的評価規準
導入 5分	◎オペラの構成上の特徴と音楽の構成上の特徴とのかかわりを理解し、表現を工夫する。	○発声練習 ○〈乾杯の歌〉をイタリア語で歌唱する。	■体の緊張をほぐし、意欲的に取り組める雰囲気づくりをする。	
展開 35分		○歌唱活動 (アルフレードとヴィオレッタ役に分かれて活動。待ち時間は調べ学習の続きをする。) ・前時に調べた楽曲の背景を基にして、登場人物の心情や場面にふさわしい表現を考える。 ・歌唱表現の工夫に加えて、「演じる」ことを考え、意見を交換する。 ○表現の工夫と批評活動 ・代表一組が二重唱する。 ・前時まで学習したことを手がかりにして表現を工夫する。 ・友人の歌唱の良い点や、改善点などについて意見を発表し合う。 ・演奏上の効果と、心情の表現について、意見を交換し合う。 (自分ならこう表現したい など) ・ワークシートに記録をする。 ○鑑賞活動 ・発表された場面の演奏をDVDで鑑賞する。 ・自分たちのイメージや考えと、照らし合わせてみる。 ・どのように表現していたか、舞台映像から、感じ取ったことを話し合い発表する。	■音楽がどのような心情を表現しているか、音楽の要素や構造上の特徴を基にして考えることを示唆する。 ■生徒一人一人の考え方や表現の仕方を尊重しつつ、よりよい表現となるように支援をする。 ■発表の雰囲気づくり。 ■発表や意見交換の準備と歌唱活動に対しての、個に応じた助言をする。  ■プロの演奏や演技などの表現方法に注目させる。	◆曲想を音楽の要素と関連させながら、感じ取っているか。 イ②-活動の観察 ◆楽曲の背景や登場人物の心情を感じ取り、音楽とのかかわりを考えて表現を工夫している。 ウ②-活動の観察  ◆総合的な芸術作品の美しさやよさを味わっている。 エ②-意見発表, ワークシート
まとめ 5分		○本時の学習についての感想をワークシートにまとめる。 ○次回の学習内容について確認をする。	■次回の学習についての動機付けを行う。	

資料1 ワークシート①

ノ舞台芸術の世界 ~オペラ編~ オペラの一場面に挑戦! ①	年 級 番 氏 名
タイトル	
作曲者について	
オペラのあらすじ(1分で読んでみよう)	登場人物情報
シーンその1 ( ) ♪場面背景について	
♪登場人物や心情について	
♪表現の工夫 (どのように観たい?)	
♪メモ	

シーンその2 ( ) ♪場面背景について
♪登場人物や心情について
♪表現の工夫 (どのように観たい?)
♪メモ
♪あらさがし場面ごとのシーン

見どころシーン (生徒のワークシートより抜粋)

- ・ ヴィオレッタのアルフレードの出会いと〈乾杯の歌〉
- ・ アルフレードがヴィオレッタを賛美するシーン
- ・ ヴィオレッタが恋に落ちるシーン。
- ・ アルフレードの父が二人を別れさせるシーン。
- ・ アルフレードがヴィオレッタを侮辱するシーン。
- ・ 誤解が解けたシーン。
- ・ 〈パリを離れて〉から最後までヴィオレッタの死。

資料2 ワークシート② (第5時 台本の読み合わせ)

ノオペラの一場面に挑戦! ② *歌詞や台本に注目しよう! ~台本の表紙より~ 日本語タイトル・・・「椿姫」 原語タイトル・・・ ( ) 第のオペラ (メロドラマ) Melodramma in tre atti 音楽・・・ジュゼッペ・ヴェルディ ( ) 台本・・・フランチェスコ・マリア・ピアヴェ (1810~1876) 原典・・・( ) の小説 作曲年・・・1853年 初演・・・1853年3月6日、ヴェネツィア、( ) 劇場	年 級 番 氏 名
---	--------------

~歌劇について~  
〈乾杯の歌〉

TUTTI  
一員

Si, sì, un brindisi.  
全員  
そうだ、乾杯の詩でも。

ALFREDO  
L'estro  
Non m'arride  
アルフレード  
インスピレーションが  
わいてこないのだが。

GASTONE  
E non se' tu maestro?  
ガストーネ  
君はマエストロだろ?

ALFREDO  
(a Violetta)  
Vi fia grato?  
アルフレード  
(ヴィオレッタに)  
貴女もお望みですか?

VIOLETTA  
Sì.  
ヴィオレッタ  
ええ。

ALFREDO  
(S'alza)  
Sì? L'ho già in cor.  
アルフレード  
(立ち上がる)  
そう? 既に思いつきましたよ。

MARCHESE  
Dunque attenti  
侯爵  
では、拝聴しよう。

TUTTI  
Sì, attenti al cantor.  
全員  
そうだ、詩人に注目しよう。

ALFREDO  
Libiam ne' lieti calici  
Che la bellezza infiora,  
E la fuggevol ora  
S'inebria a voluttà.  
Libiam ne' dolci fremiti  
Che suscita l'amore,  
Poiché quell'occhio al core  
(indicando Violetta)  
Onnipotente va.  
Libiamo, amor fra i calici  
Più caldi baci avrà.  
アルフレード  
酌み交わそう、喜びの酒杯を  
美しい花と共に。  
そしてつかの間の時間、  
喜びで酔いしれる。  
飲もうじゃないか、甘いときめきが  
恋を鼓舞するのだ。  
抗いがたい眼差しが  
(ヴィオレッタを指す)  
私の心を誘うがゆえに。  
酌み交わそう、愛の杯を  
口づけは熱く燃えるのだ。

(S'alza)  
Tra voi saprò dividere  
Il tempo mio giocondo:  
Tutto è follia nel mondo  
Ciò che non è pascor.  
Godiam, fuggace e rapido  
È il gaudio dell'amore:  
È un fior che nasce e muore,  
Né più si può goder.  
Godiam c'invita un fervido  
Accento lusinghier.

TUTTI  
Godiam la tazza e il canticò  
La notte abbella e il riso:  
In questo paradiso  
Ne scopra il nuovo dì.

VIOLETTA  
(ad Alfredo)  
La vita è nel tripudio.

ALFREDO  
(a Violetta)  
Quando non s'ami ancora.

VIOLETTA  
(ad Alfredo)  
Nol dite a chi l'ignora.

ALFREDO  
a Violetta  
È il mio destin così

TUTTI  
Godiam la tazza e il canticò  
La notte abbella e il riso:  
In questo paradiso  
Ne scopra il nuovo dì.

(立ち上がる)  
皆様と一緒に、楽しい時を  
分かち合うことが出来ます。  
この世は愚かなことで溢れてる、  
楽しみの他は、  
楽しみましょう、儚く去るのです、  
愛の喜びとて、  
咲いては散る花のように、  
二度とは望めないのです。  
Godiam c'invita un fervido  
言葉を誘うまに。

全員  
楽しもう、酒杯と歌は  
夜と笑いを美しくするのだ。  
この楽園の中で  
新たな日が、私たちを見出すように。

ヴィオレッタ  
(アルフレードに)  
人生は楽しみと共にあります。

アルフレード  
(ヴィオレッタに)  
愛を知らない間は。

ヴィオレッタ  
(アルフレードに)  
愛を知らぬ者に、そんな事を言わないで  
ください。

アルフレード  
(ヴィオレッタに)  
私の運命はそうなのです。

全員  
楽しもう、酒杯と歌は  
夜と笑いを美しくするのだ。  
この楽園の中で  
新たな日が、私たちを見出すように。

## [楽譜・資料]

### ○書籍資料（資料コーナーに用意したもの）

- 中原原理『オペラ鑑賞辞典』東京堂出版 1991年
- 寺崎裕則『作曲家別名曲解説ライブラリー24 ヴェルディ』音楽之友社 1995年
- 坂本鉄男訳オペラ対訳『椿姫』音楽之友社 2009年
- 里中満智子マンガ名作オペラ『椿姫』中央公論新社 2004年
- 名作オペラシリーズ解説書『隔週刊 DVD オペラ・コレクション2《椿姫》』デアゴスティーニ 2009年
- アレッサンドロ・タヴェルナ著 高田和文訳『オペラのすべて』ヤマハ 1999年
- 小畑恒夫『オペラ・キャラクター解説辞典』音楽之友社 2000年

### ○音源・映像

・ヴェルディ歌劇《椿姫》

指揮サー・ゲオルグ・ショルティ，コヴェント・ガーデン・ロイヤル・オペラ：UCBD-9003（DVD）1994年

・ヴェルディ歌劇《椿姫》

指揮カルロ・リッツィ，ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団：BG-9097（DVD）2005年

写真1 代表生徒の発表



写真2 グループ学習の様子



\* 資料コーナー（写真下）

## 5 実践例その2

### (1) ステージ発表の取り組みについて

ここでは、全10時間による学習活動のまとめとして、生徒たちが考えたオペラの一場面を、ステージで演奏発表した実践例を紹介したい。

発表では、演奏上の効果も考え〈乾杯の歌〉を演奏することにした。また、実際の〈乾杯の歌〉の場面と同じく、4小節の境界和音と21小節間の前奏も入れた演奏に挑戦した。生徒が考えた演出は、「舞台は現代の高校のパーティ、男子がある女子に告白をしようとするが、軽くあしらわれてしまう。友人たちになぐさめられ、最後は声高らかに歌う…」というものであった。生徒たちは、25小節間という長い前奏を上手に使い、小さなドラマを演じていた。（資料2ワークシート参照）

### (2) 発表場所と日時

対 象 千葉県立八街高等学校 D 講座音楽Ⅱ選択者

2年男子（3名）2年女子（7名）3年女子（3名）その他合唱部（5名）

日 時 平成23年1月16日（木）

場 所 印旛地区連合音楽会 佐倉市民音楽ホール

### (3) 学習計画（全3時間）

次	ねらい	時	学習活動
発表 （表現 意図をもち 創造的に表 現する）	● 作品の内容を理解し、図や意図をもって表現する。	第1～2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 〈乾杯の歌〉の表現工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場面について、楽譜の流れに沿いながら物語を考える。</li> </ul> </li> <li>○ 役割分担をする</li> <li>○ 演出を考える               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分なりのシチュエーションを設定する。</li> <li>・ 台本（対訳）の注釈に着目して動きのヒントを得る。</li> <li>・ 舞台上の立ち位置について考え、ワークシートに記入する。</li> <li>・ 音楽の流れに合わせた動きを考え、ワークシートに記入する。</li> </ul> </li> <li>○ 立ち稽古               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語の歌詞で歌唱する。</li> <li>・ 原語で歌唱する。</li> </ul> </li> </ul>
		第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発表               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際のステージ立ち、〈乾杯の歌〉の演奏発表をする。</li> </ul> </li> </ul>

写真3 リハーサル風景



写真4 ステージ発表





## 6 まとめと考察

全10時間による検証授業から、生徒たちは、音楽そのものを感じ取り、考え、歌唱表現や鑑賞を通して確かめ、人に伝えるための表現を工夫していたことが分かった。生徒は楽曲に触れるとき、まずイメージから音楽的特徴を感じ取ろうとしていた。しかし、歌唱表現の工夫、さらにはオペラの一場面を演出するという活動を展開するうちに、試行錯誤しながらも、音楽の特徴を根拠にして言葉で表わし、伝えながら表現の工夫を図っていた。最後のステージ発表に至っては、生徒たちが自ら考え、表現意図をもって演奏発表を行っていた。ステージでは、クラスメイトとの感動体験を共有しながら音楽と深くかかわることができた。このような活動は、創造的な音楽活動といえるのではないだろうか。また、何よりも生徒の実態を考えると、積極的に創造的な表現活動を実現したことで、今後の学習に対しても、良い方向性を見出すことができたのではないと思われる。

今回の学習計画では、オペラを全幕通して鑑賞してはいない。また、教師がオペラについてトップダウン式に教え込むといった形も一切取らなかった。しかし、生徒たちは作品の内容を十分に理解し、オペラ作品と深くかかわっていた。それは、ワークシートやレポートから見取ることができる。また、「全幕通して鑑賞してみたい」「いつか本物を見てみたい」などの感想も聞くことができた。このように、生徒が自らの活動により獲得したことは、鑑賞や表現活動に対しての意欲向上に結び付くことが確信できた。

「オペラの一局面に挑戦する」という活動は、生徒たちにとって初めての体験であったが、生徒同士でよい関係を築きながら、「自分らしさ」を生かした活動を行っていた。このように、生徒自らが音楽を受け入れようとしたときこそ、本物の音楽との出合いが感動的なものとなることは明白である。音楽の楽しさやよさを自分で見つける方法のひとつを、見出すことができたのではないだろうか。

今後は、生徒の特性に合った表現形態や音域を踏まえたうえで、他のオペラ作品やミュージカル作品にも目を向けた教材研究を行い、表現する喜びや楽しさを味わうことができるような授業づくりと指導方法の研究を継続していきたい。

### 資料4 ワークシートより(発表後、録画映像を見た感想)

- ・とても気持ちを込めて歌っているのが見てよくわかりました。演出に関しては、乾杯するシーンはよかったのですが、告白シーンはもう少し演技をつけたほうがよいと思いました。また動きは大きく表現したほうが見ている人にも伝わるし、歌っている自分たちも楽しめると思いました。服装も簡単なものでも、だれが何の役をやっているか、変化をつけたほうが立体感も出てくると思いました。
- ・高い声の時に発声がうまうまなかったが、楽しく演奏できた。オペラのことを習ったことで、声の出し方が変わったことが嬉しかった。
- ・もっと派手に演技をすればよかった。衣装や小道具にも凝ってみたかった。時代を変えてみても面白いと思った。ピアノ以外の楽器も使ってもよかった。
- ・後ろの人たちは、パーティの雰囲気を出すために踊るとよかった。

## 7 おわりに

「音楽の授業を通して、生徒の人生にどれだけインパクトを与えられるか…。」  
時々、大学の恩師の言葉を思い出す。

音楽の教員として高校の教壇に立ち、十数年があつという間に経った。振り返ってみれば、試行錯誤の連続であった。「生徒はどのような歌が好きだろうか」、「クラシック音楽は生徒にとって敷居が高く、好まれないのではないだろうか」など、生徒たちの音楽の嗜好を気にしながら授業の計画を立てていたことが多かった。ある時、「音楽の授業でどんなことをやってみたい?」と、3年生に問いかけてみたことがあった。すると、「今までやったことがなくて、卒業したらできないこと。例えば、オペラの一場面とか…。」という答えが返ってきた。意外であったがとても嬉しかった。しかし、「オペラの一場面」の授業実践することなく月日が過ぎ、学校も3校目となった。そして今回、教科研究員として研究の機会を与えられ、このやり残した課題に取り組むことにしたのである。

本校の生徒も前任校と同様、特別に音楽経験が豊富でもなく、表現することに関しては積極的とはいえない状況である。しかし、生徒たちには何よりも、「自分の思いや考えを、恥ずかしがらずに伝え、表現できる力」を身に付けて欲しいと切に願っている。音楽の専門的な知識の習得や、技術の向上も大切であるが、生徒たちが高校を離れても音楽や芸術に親しむ生活を送ることができる、音楽と深くかかわっていく契機となって欲しいのである。

今回の研究で、生徒にとっては敷居が高いと思われるオペラ作品を教材に取り上げた。しかし、敷居が高いと思っているのは教師だけであった。豊かな音楽環境に囲まれている現代の高校生は、音楽に垣根を作ることなく、日常接することの少ない音楽に対しても教師が考える以上に興味・関心をもっていることが、今回の授業実践から

分かったのである。

今後も、生徒の人生にインパクトを与えられるような音楽の授業の在り方について、追求し続けたい。

### 【参考資料・音源、映像資料】

- 『高等学校指導要領解説芸術編』文部科学省 平成21年12月
- 小畑恒夫『オペラ・キャラクター解説辞典』音楽之友社、2000年
- 寺崎裕則『作曲家別名曲解説ライブラリー② ヴェルディ』音楽之友社1995年、p.100-111
- 坂本鉄男訳オペラ対訳『椿姫』音楽之友社、2009年
- 里中満智子マンガ名作オペラ『椿姫』中央公論新社、2004年 p.6-64 p.226-233
- 名作オペラシリーズ解説書『隔週刊 DVD オペラ・コレクション2 《椿姫》』デアゴスティーニ、2009年
- 『これ一冊で深くわかるオペラ入門』ヤマハ・アトス・ミュージック・アソシエイツ・ビジュアル
- アレッサンドロ・タヴェルナ著 高田和文訳『オペラのすべて』ヤマハ1999年
- ヴェルディ 歌劇《椿姫》抜粋 指揮カルロス・クライバー、バイエルン国立歌劇団：POCG-3043(CD)1976年
- ヴェルディ 歌劇《椿姫》指揮サー・ゲオルグ・ショルティ、コヴェント・ガーデン・ロイヤル・オペラ：UCBD-9003 (DVD) 1994年
- ヴェルディ 歌劇《椿姫》指揮カルロ・リッツィ、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団：BG-9097 (DVD) 2005年

